

- 1:104-108, 2007.
219. 清水徹男: 高齢者によくみられる睡眠障害と治療 夜間せん妄. Geriatric Medicine 45:471-477, 2007.
220. 武村史, 神林崇, 清水徹男: ナルコレプシーの病態と治療. 治療 89:87-94, 2007.
221. 吉田祥, 神林崇, 清水徹男: ナルコレプシーの臨床. 脳 21 11:448-451, 2008.
222. 吉田祥, 江村成就, 神林崇, 清水徹男: 過眠を来す疾患の診断のポイントと対応. 日本医師会雑誌 137:1431-1435, 2008.
223. 近藤英明, 吉田 健志, 西智加子, 川崎昭子, 武村尊生, 神林崇, 和泉元衛, 清水徹男: 睡眠不足が Multiple Sleep Latency Test(MSLT)に及ぼす影響について MSLT でナルコレプシー様の検査結果を呈した睡眠不足症候群. 睡眠医療 2:475-479, 2008.
224. 清水徹男: 24時間の自律神経活動リズム. 生体医工学 46:154-159, 2008.
225. 武村史, 神林崇, 清水徹男: 近年承認されたオーファンドラッグ ナルコレプシー治療薬. 薬事 50:895-901, 2008.
226. 清水徹男: 高齢者の睡眠障害. 老年精神医学雑誌 19:540-548, 2008.
227. 武村尊生, 武村史, 神林崇, 清水徹男: 高齢者の睡眠障害. 臨床精神医学 37:641-648, 2008.
228. 宮本雅之, 宮本智之, 井上雄一, 清水徹男: 睡眠関連運動障害(SRMD)の診断・治療・連携ガイドライン. 睡眠医療 2:290-295, 2008.
229. 田ヶ谷浩邦, 清水徹男: 一般医療機関における睡眠障害スクリーニングガイドライン. 睡眠医療 2:267-270, 2008.
230. 清水徹男, 名嘉村博, 井上雄一, 田ヶ谷浩邦: 睡眠医療における政策医療ネットワーク構築のための医療機関連携のガイドライン作成に関する研究(総論). 睡眠医療 2:263-266, 2008.
231. 清水徹男: 精神疾患と睡眠障害. 精神科 12:185-90, 2008.
232. 清水徹男: 心身・精神疾患 せん妄. 総合臨床 57:1462-1463, 2008.
233. 清水徹男, 武田忠厚: 医学生の司法精神医療に関する知識と意識についての調査. 司法精神医学 3:53-55, 2008.
234. 清水徹男: 総論 睡眠障害の社会的問題 睡眠障害の心身への影響. 日本臨床 66:53-56, 2008.
235. 神林崇, 中村道三, 丸山史, 武村尊生, 清水徹男: ナルコレプシーの原因ペプチドである髄液オレキシン測定にまつわる最近の知見. 分子精神医学 8:160-163, 2008.
236. 清水徹男: 睡眠、精神症状・自律神経症状の概日リズム(サーカディアンリズム)と周期性. 臨床精神医学 37:255-261, 2008.
237. 神林崇, 近藤英明, 中村道三, 筒井幸, 佐川洋平, 徳永純, 清水徹男: 視床下部病変によりオレキシン神経障害を来して生じた2次性の過眠症. 睡眠医療 2:157-164, 2008.
238. 清水徹男: 睡眠と精神疾患のかかわりを探る. Life Style Medicine, 3:221-227,

2009.

239. 清水徹男: 転倒予防と睡眠. ねむりと医療 2:31-34, 2009.
240. 清水徹男: 私の睡眠研究事始め. 総合臨牀 58:452-455, 2009.
241. 吉尾隆, 清水徹男: 眠れなくて困っている人のために薬剤師の皆さんが出来ること. 薬局, 60:149-152, 2009.
242. 武村尊生, 武村史, 神林崇, 清水徹男: 不眠症の概念, 定義. 日本臨牀, 67:1459-1462, 2009.
243. 清水徹男: 精神症状を呈する, 忘れてはならない内科疾患. Medical Practice 26:1482-1485, 2009.
244. 細川敬輔, 櫻井滋, 神林崇, 清水徹男: 過眠症の薬物治療. Pharma Medica, 27:57-60, 2009.
245. 清水徹男: 高齢者のうつ病と睡眠障害. Geriatric Medicine 47:1445-1448, 2009.
246. 清水徹男: 睡眠障害とうつ. MEDICAMENT NEWS 1997:5-6, 2009.
247. 清水徹男: 不眠とうつの因果(総論). 睡眠医療 3:142-145, 2009.
248. 武村尊生, 武村史, 神林崇, 清水徹男: 高齢者の睡眠障害の診断と治療導入. 睡眠医療 3:183-190, 2009.
249. 伏見雅人, 工藤康嗣, 村田勝敬, 清水徹男, 関雅幸, 齊藤征司: 秋田県の職域におけるメンタルヘルス実態調査について. 産業衛生学雑誌 51:145, 2009.

G-2. 学会発表

1. 榎本みのり, 古田光, 肥田昌子, 有

竹清夏, 北村真吾, 渡邊真紀子, 田村美由紀, 樋口重和, 筒井孝子, 大冢賀政昭, 兼板佳孝, 三島和夫: 診療報酬データに基づく睡眠薬の処方実態に関する横断的および縦断的調査, in 第6回アジア睡眠学会・日本睡眠学会第34会定期学術集会・第16回日本時間生物学会学術大会合同大会, 大阪, 2009年10月.

2. 古田光, 榎本みのり, 草薙宏明, 安部俊一郎, 梶達彦, 三島和夫: 不眠・抑うつ患者の受療行動と向精神薬の服用実態に関する調査, in 第105回日本精神神経学会学術大会, 神戸, 2009.8.21-23, 2009年8月.
3. 古田光, 榎本みのり, 草薙宏明, 阿部俊一郎, 梶達彦, 肥田昌子, 有竹清夏, 筒井孝子, 大冢賀政昭, 兼板佳孝, 三島和夫: 診療報酬に基づく日本における睡眠薬・抗うつ薬の処方実態に関するデータ, in 第6回アジア睡眠学会・日本睡眠学会第34会定期学術集会・第16回日本時間生物学会学術大会合同大会, 大阪, 2009年10月.
4. 向當さや香, 田口勇次郎, 榎本みのり, 三島和夫, 遠藤拓郎: 腰の活動量を使用した睡眠・覚醒判定の信頼性～OSASとうつ病患者による検討～, in 第6回アジア睡眠学会・日本睡眠学会第34会定期学術集会・第16回日本時間生物学会学術大会合同大会, 大阪, 2009年10月.
5. 三島和夫: 【セミナー】不眠とうつ病の接点, in 第4回日本睡眠学会・生涯教育セミナー, 東京, 2009年8月.
6. 肥田昌子: 時計遺伝子と眠り シンポジウム II「人類はいつどの様に眠るのか」, in 日本生理人類学会第61回大

- 会, 東京, 2009年9月27日, 2009年9月.
7. 田村美由紀, 樋口重和, 肥田昌子, 有竹清夏, 榎本みのり, 守口善也, 三島和夫: Risk perceptual function from mirror neuron system., in 第32回日本神経科学大会, 名古屋, 2009年9月.
 8. 樋口重和, 肥田昌子, 有竹清夏, 榎本みのり, 田村美由紀, 平野均, 樋口輝彦, 三島和夫: 白色LEDを用いた光照射装置のメラトニン抑制作用, in 日本生理人類学会第61回大会 東京, 2009年9月.
 9. 三島和夫: 【シンポジウム】高齢者の睡眠・覚醒状態を24-hour perspectiveでモニターすることの有用性, in 第6回アジア睡眠学会・日本睡眠学会第34会定期学術集会・第16回日本時間生物学会学術大会合同大会, 大阪, 2009年10月-a.
 10. 三島和夫: 認知行動療法に課せられた宿題: 真に薬物療法の代替・補完療法になり得るか, in 第9回日本認知療法学会, 千葉, 2009年10月-b.
 11. 曾雌崇弘, 栗山健一, 有竹清夏, 榎本みのり, 肥田昌子, 田村美由紀, 金吉晴, 三島和夫: 睡眠剥奪によるヒト短時間知覚の変動と前頭前野の血流動態変動の関連, in 第6回アジア睡眠学会・日本睡眠学会第34会定期学術集会・第16回日本時間生物学会学術大会合同大会, 大阪, 2009年10月.
 12. 田村美由紀, 樋口重和, 肥田昌子, 有竹清夏, 榎本みのり, 守口善也, 三島和夫: 睡眠負債時の表情認知機能とミラーニューロンシステム, in 第6回アジア睡眠学会・日本睡眠学会第34会定期学術集会・第16回日本時間生物学会学術大会合同大会, 大阪, 2009年10月.
 13. 肥田昌子, 渡邊真紀子, 加藤美恵, 有竹清夏, 榎本みのり, 北村真吾, 田村美由紀, 樋口重和, 三島和夫: 概日時計システムと睡眠調節, in 第6回アジア睡眠学会・日本睡眠学会第34会定期学術集会・第16回日本時間生物学会学術大会合同大会, 大阪, 2009年10月.
 14. 樋口重和, 有竹清夏, 榎本みのり, 肥田昌子, 高橋正也, 三島和夫: 夜型タイプは位相前進ゾーンの早いタイミングに起床しているのに概日リズムが前進しないのはなぜか, in 第6回アジア睡眠学会・日本睡眠学会第34会定期学術集会・第16回日本時間生物学会学術大会合同大会, 大阪, 2009年10月.
 15. 北村真吾, 肥田昌子, 渡邊真紀子, 有竹清夏, 榎本みのり, 田村美由紀, 樋口重和, 三島和夫: 夜型指向性と重度の睡眠負債が抑うつ傾向に関連する, in 第6回アジア睡眠学会・日本睡眠学会第34会定期学術集会・第16回日本時間生物学会学術大会合同大会, 大阪, 2009年10月.
 16. 有竹清夏, 樋口重和, 肥田昌子, 鈴木博之, 榎本みのり, 田村美由紀, 栗山健一, 曾雌崇弘, 北村真吾, 渡邊真紀子, 井上正雄, 三島和夫: 自己覚醒と脳血流量変動, in 第6回アジア睡眠学会・日本睡眠学会第34会定期学術集会・第16回日本時間生物学会学術大会合同大会, 大阪, 2009年10月.
 17. 三島和夫: 【教育講演】“うつ”と不眠—その病態と治療に関する話題—, in

- 富士市医師会講演会, 富士市, 2009年11月.
18. 三島和夫: 【教育講演】ヒトの体内時計調節とその障害, in 「時を計る」研究会, 東京, 2009年12月.
 19. 肥田昌子, 渡邊真紀子, 北村真吾, 加藤美恵, 有竹清夏, 榎本みのり, 守口善也, 角谷寛, 内山真, 海老澤尚, 井上雄一, 三島和夫: 概日リズム障害と時計遺伝子多型の相関研究, in 第5回関東睡眠懇話会, 東京, 2010.2.27, 2010年2月.
 20. 北村真吾, 榎本みのり, 亀井雄一, 小山智典, 黒田美保, 稲田尚子, 森脇愛子, 辻井弘美, 神尾陽子, 三島和夫: 地域在住の2歳児における睡眠習慣及び睡眠障害に関する調査, in 第5回関東睡眠懇話会, 東京, 2010.2.27, 2010年2月.
 21. 有竹清夏: 【シンポジウム】不眠の病態生理, in 第39回日本臨床神経生理学学会学術大会, 小倉, 11月18日, 2009年11月.
 22. 榎本みのり, 北村慎吾, 古田光, 草薙宏明, 兼板佳孝, 三島和夫: 日本における向精神薬の処方実態 -3年間の縦断解析から-, in 第5回関東睡眠懇話会, 東京, 2010.2.27, 2010年2月.
 23. Kamei Y : The sleep patterns and problems in normal children. 日本睡眠学会企画シンポジウム 2009.10.25.
 24. 岩垂喜貴, 亀井雄一, 土井由利子, 宇佐美政英, 小平雅基, 渡部京太, 齊藤万比古 : 児童精神科初診患者を対象とした睡眠に関する研究 日本睡眠学会 2009.10.25.
 25. 牧野和紀, 亀井雄一, 早川達郎: 睡眠関連食行動障害の2例 日本睡眠学会 2009.10.25.
 26. 宇佐美政英, 亀井雄一, 大西豊史, 牛島洋景, 岩垂喜貴, 渡部京太, 小平雅基, 齊藤万比古: 中学生年代における気分障害の睡眠について 日本睡眠学会 2009.10.25.
 27. 宇佐美政英, 亀井雄一, 大西豊史, 牛島洋景, 岩垂喜貴, 渡部京太, 小平雅基, 齊藤万比古: 一般児童における抑うつと睡眠の関係について 日本睡眠学会 2009.10.25.
 28. 井上雄一: 臨床的な眠気の定量評価の現状と問題点. 第46回日本生体医工学会, 仙台, 2007年4月
 29. 井上雄一: 眠気の推定を目的とした模擬運転時におけるサッカード眼球運動の解析. 第46回日本生体医工学会, 仙台, 2007年4月
 30. 井上雄一: 睡眠障害の心身に及ぼす影響とその対策. 第80回日本産業衛生学会, 大阪, 2007年4月
 31. Tsuiki S, Fujimatsu, S, Munezawa T, Sato, Y, Inoue Y: Craniofacial features of female patients with obstructive sleep apnea. the XV International Congress of the International Society of Psychosomatic Obstetrics and Gynecology, Kyoto, 2007年5月
 32. Komada Y, Nomura T, Kusumi M, Nakashima K, Inoue Y: Vulnerability of insomnia and hypnotic use in women. the XV International Congress of the International Society of Psychosomatic Obstetrics and Gynecology, Kyoto, 2007年5月

33. Inoue Y: The validity and responsiveness of the Japanese version of the International Restless Syndrome Study Group Rating Scale (IRLS). 11th International Congress of Parkinson's Disease and Movement Disorders, Istanbul, 2007年6月
34. Oka Y, Suzuki S, Inoue Y: Prevalence of Restless Legs Symptom and growing pain among primary school children in Japan. 21st annual meeting of the associated professional sleep societies, LLC, Minneapolis, 2007年6月
35. Oka Y, Inoue Y: Change of periodic limb movement index after CPAP treatment of obstructive sleep apnea exacerbate with increasing age. 21st annual meeting of the associated professional sleep societies, LLC, Minneapolis, 2007年6月
36. Ozone M, Yagi Y, Itoh H, Tamura Y, Inoue Y, Uchimura N, Nakayama K, Terzano M, Shimizu T: Microstructure of sleep in paradoxical insomnia. 21st annual meeting of the associated professional sleep societies, LLC, Minneapolis, 2007年6月
37. Tsuiki S, Ryan F, Alan L, Inoue Y: Functional effects of mandibular advancement
38. oral appliances on awake upper airway patency in obstructive sleep apnea. 21st annual
39. meeting of the associated professional sleep societies, LLC, Minneapolis,
40. 2007年6月
41. (サ) 井上雄一: レストレス・レッグス症候群の臨床. 第25回日本神経治療学会, 仙台, 2007年6月
42. (シ) Munezawa T, Inoue Y, Nedate K: Factors related to the efficacy of Cognitive Behavior Therapy for primary insomnia. V World Congress of Behavioral and Cognitive Therapies, Barcelona, 2007年7月
43. (ス) 駒田陽子, 井上雄一: 交通事故に及ぼす眠気の影響. 日本心理学会第71回大会, 東京, 2007年9月
44. (セ) 井上雄一, 本多裕, 高橋康郎, 菱川泰夫, 村崎光邦: 日本人ナルコレプシー患者におけるモダフィニルの有効性と安全性の検討 - プラセボ対照多施設並行群間二重盲検比較試験 -, 第17回日本臨床精神神経薬理学会, 大阪, 2007年10月
45. 験-, 第17回日本臨床精神神経薬理学会, 大阪, 2007年10月
46. (ソ) 井上雄一: レストレスレッグス症候群の治療戦略をめぐって, 日本睡眠学会第32回定期学術集会, 東京, 2007年11月
47. (タ) 野村哲志, 井上雄一, 河内明宏, 中島健二: 『睡眠時の運動障害』- レストレスレッグス症候群の疫学 -, 日本睡眠学会第32回定期学術集会, 東京, 2007年11月
48. (チ) 駒田陽子, 海老澤尚, 碓氷章, 林田健一, 高橋清久, 井上雄一: 睡眠相後退症候群に対するメラトニン治療の効果, 日本睡眠学会第32回定期学術集会, 東京, 2007年11月
49. (ツ) 小口芳世, 林田健一, 駒田陽子, 難波一義, 井上雄一: 睡眠関連食行動障害の臨床的特徴に関する検討, 日

- 本睡眠学会第 32 回定期学術集会, 東京, 2007 年 11 月
50. (テ)植野彰規, 永安弘樹, 國分志郎, 井上雄一: 模擬運転時におけるサッカー、脳波、運転パフォーマンスの解析, 日本睡眠学会第 32 回定期学術集会, 東京, 2007 年 11 月
51. (ト)佐藤雅子, 篠邊龍二郎, 野村敦彦, 加藤ちひろ, 有田亜紀, 北村佳織, 木野智恵子, 西尾洋美, 今井正人, 伊藤朝雄, 森田みき子, 大倉良仁, 堀礼子, 臼井研吾, 若山英雄, 大竹一生, 中山名峰, 井上雄一, 塩見利明: プレッシャーセンサ呼吸曲線に特異的な波形を呈した口蓋ミオクローヌスの 1 例, 日本睡眠学会第 32 回定期学術集会, 東京, 2007 年 11 月
52. (ナ)林田健一, 難波一義, 石井綾乃, 井上雄一: 閉塞性睡眠時無呼吸症候群患者の nCPAP 治療後における残遺眠気に関する検討, 日本睡眠学会第 32 回定期学術集会, 東京, 2007 年 11 月
53. (ニ)榎本みのり, 井上雄一, 難波一義, 下由美, 岡靖哲, 松浦雅人: レストレスレッグス症候群の主観的評価と客観的評価法の検討, 日本睡眠学会第 32 回定期学術集会, 東京, 2007 年 11 月
54. (ヌ)岡靖哲, 井上雄一: 経鼻時持続陽圧呼吸療法に伴う睡眠時周期性四肢運動の変動-加齢との関連, 日本睡眠学会第 32 回定期学術集会, 東京, 2007 年 11 月
55. (ネ)宗澤岳史, 有竹清夏, 三島和夫, 井上雄一: 不眠症患者における夜間睡眠の客観的評価と主観的評価の乖離, 日本睡眠学会第 32 回定期学術集会, 東京, 2007 年 11 月
56. (ノ)笹井妙子, 駒田陽子, 野村哲志, 井上雄一: 不眠と睡眠薬が QOL に及ぼす影響, 日本睡眠学会第 32 回定期学術集会, 東京, 2007 年 11 月
57. (ハ)武村尊生, 武村史, 神林崇, 井上雄一, 内村直尚, 伊藤洋, 内山真, 佐川洋平, 徳永純, 清水徹男: 原発性不眠症の薬物療法による QOL の改善-プロチゾラムを使用して-日本睡眠学会第 32 回定期学術集会, 東京, 2007 年 11 月
58. (ヒ)中村真樹, 井上雄一, 松岡洋夫: 頭部外傷後過眠症のトラクトグラフィ画像所見, 日本睡眠学会第 32 回定期学術集会, 東京, 2007 年 11 月
59. (フ)田ヶ谷浩邦, 清水徹男, 伊藤洋, 井上雄一, 内村直尚, 江崎和久, 大井田隆, 亀井雄一, 神林崇, 河野正己, 榊原博樹, 塩見利明, 名嘉村博, 古田壽一, 宮崎総一郎, 宮本雅之: 睡眠障害医療における医療機関連携のガイドライン作成に関する研究(第 2 報). 日本睡眠学会第 32 回定期学術集会, 東京, 2007 年 11 月
60. (ヘ)湯川久美子, 井上雄一, 柳生久永, 長谷川達哉, 足立秀喜, 佐野恵利華, 渋沢稔, 永野直子, 鈴木衛: 女性の睡眠時無呼吸低呼吸症候群 (OSAHS) に関する検討, 日本睡眠学会第 32 回定期学術集会, 東京, 2007 年 11 月
61. (ホ)對木悟, 柴田早紀, 松浦雅人, 井上雄一: 閉塞性睡眠時無呼吸症患者に対する口腔内装置の治療効果予

- 測: Mallampati 分類は有効か? 日本睡眠学会第 32 回定期学術集会, 東京, 2007 年 11 月
62. (マ) 駒田陽子, 井上雄一: 居眠り運転と居眠り運転事故に関する要因の検討, 日本睡眠学会第 32 回定期学術集会, 東京, 2007 年 11 月
63. (ミ) 井上雄一: 睡眠不足症候群の臨床, 第 37 回日本臨床神経生理学会, 宇都宮, 2007 年 11 月
64. (ム) 井上雄一: 不眠診療の向上をめざして-睡眠の質と日常生活機能の評価について, 第 37 回日本臨床神経生理学会, 宇都宮, 2007 年 11 月
65. (メ) 笹井妙子, 駒田陽子, 井上雄一: HLA-DRB1*1501/DQB1*0602 の有無による Narcolepsy without Cataplexy (NA w/o CA) の臨床特性の差異についての検討, 第 37 回日本臨床神経生理学会, 宇都宮, 2007 年 11 月
66. (モ) 井上雄一: レストレスレッグス症候群の診断と治療, 第 12 回日本神経精神医学会, 東京, 2007 年 11 月
67. Tsuiki S, Isono S, Ryan C, Shibata S, Matuura M, Inoue Y: Mallampati score and obesity as simple predictors of oral appliance efficacy in patients with obstructive sleep apnea., Baltimore, 2008 年 6 月
68. Kanbayashi T, Kodama T, Kondo H, Satoh S, Inoue Y, Chiba S, Iijima S, Hishikawa Y, Shimizu T, Nishino S.: CSF histamine levels in narcolepsy, idiopathic hypersomnia and obstructive sleep apnea syndrome. Baltimore, 2008 年 6 月
69. 井上雄一: レストレスレッグス症候群における pramipexole の治療効果 後期第二相試験の結果から, 第 11 回日本薬物脳波学会学術集会, 東京, 2008 年 6 月
70. 井上雄一: レストレスレッグス症候群の睡眠ポリグラフ所見による症状評価、Pramipexole 臨床試験を通じて、第 11 回日本薬物脳波学会学術集会, 東京, 2008 年 6 月
71. 杉浦建生, 駒田陽子, 難波一義, 尾崎紀夫, 井上雄一: 睡眠時パニックの臨床的特性に関する検討, 日本睡眠学会 第 33 回定期学術集会, 福島, 2008 年 6 月
72. 小曾根基裕, 八木朝子, 伊藤洋, 田村義之, 井上雄一, 内村直尚, 佐々木三男, 中山和彦, Giovanni Terzano Mario, 清水徹男: Paradoxical insomnia における睡眠のマイクロ構造について-CAP法を用いた研究一, 日本睡眠学会 第 33 回定期学術集会, 福島, 2008 年 6 月
73. 碓氷章, 北島みよ子, 駒田陽子, 難波一義, 林田健一, 海老澤尚, 松浦雅人, 井上雄一: 不眠症患者と健康者における活動量測定-不眠症の客観的指標となるか, 日本睡眠学会 第 33 回定期学術集会, 福島, 2008 年 6 月
74. 對木悟, 難波一義, 古畑升, 片平治人, 井上雄一: 肥満度から閉塞性睡眠時無呼吸症候群患者に対する口腔内装置の治療効果を予測する, 日本睡眠学会 第 33 回定期学術集会, 福島, 2008 年 6 月
75. 阿部高志, 駒田陽子, 井上雄一, 堀忠

- 雄:意思決定課題後の睡眠が課題成績に及ぼす影響, 日本睡眠学会 第33 回定期学術集会, 福島, 2008 年 6 月
76. 駒田陽子, 白川修一郎, 井上雄一:乳幼児の睡眠と問題行動に関する研究, 日本睡眠学会 第33 回定期学術集会, 福島, 2008 年 6 月
77. 野村哲志, 井上雄一, 植村祐介, 安井健一、北山通朗、中島健二:進行性核上性麻痺とパーキンソン病のレム睡眠行動異常症関連症状と終夜脳波, 日本睡眠学会 第33 回定期学術集会, 福島, 2008 年 6 月
78. 中村真樹, 神林崇, 井上雄一:特発性過眠症とナルコレプシーにおけるオレキシンとHLA-DR2, 日本睡眠学会 第33 回定期学術集会, 福島, 2008 年 6 月
79. 井上雄一:反復睡眠潜時検査の適応と解釈, 日本睡眠学会 第33 回定期学術集会, 福島, 2008 年 6 月
80. 井上雄一:臨床睡眠研究における神経病理学的研究の必要性, 日本睡眠学会 第33 回定期学術集会, 福島, 2008 年 6 月
81. 井上雄一:覚醒障害の臨床, 日本睡眠学会 第33 回定期学術集会, 福島, 2008 年 6 月
82. 岡靖哲, 井上雄一:睡眠時無呼吸とストレスレッグス症候群・睡眠時周期性四肢運動, 日本睡眠学会 第33 回定期学術集会, 福島, 2008 年 6 月
83. Inoue Y, What's new about the treatment of RLS?, Asian Scientific Symposium PD and RLS, Tokyo, 2008 年 7 月
84. Inoue Y, Hayashida K : Factors influencing subjective sleepiness in patients with obstructive sleep apnea syndrome, ESRS, Glasgow, 2008 年 9 月
85. Abe T, Komada Y, Inoue Y, Hori T : Effect of post-learning sleep versus wakefulness on advantageous decisionmaking under uncertainty, ESRS, Glasgow, 2008 年 9 月
86. 井上雄一:プラミペキソールの後期第二相試験の結果から, 第18 回日本臨床精神神経薬理学会, 東京, 2008 年 10 月
87. 井上雄一 : 眠気の社会問題 第79 回日本衛生学会学術総会 睡眠学研究会企画シンポジウム, 東京, 2009 年 4 月
88. 井上雄一 : 過眠症の診断と対応 第82 回日本産業衛生学会, 福岡, 2009.05
89. 井上雄一 : 眠気の社会問題 第82 回日本産業衛生学会, 福岡, 2009 年 5 月
90. Nomura T, Inoue Y ,Umemura Y , et al : Association between REM sleep behavior disorders and 123I-meta-iodobenzylguanidine MIBG scintigraphic findings in patients with Parkinson's disease Thirteenth International Congress of Parkinson's Disease and Movement Disorders , Paris, 2009 年 7 月
91. Sasai T, Inoue Y : The clinical characteristics of periodic limb

- movements in REM sleep behavior disorder Thirteenth International Congress of Parkinson's Disease and Movement Disorders, Paris, 2009年7月
92. Yoritake A, Inoue Y, Shimo Y, et al.
93. : Study of non-motor symptoms in patients with Park2: RBD, olfactory functions, and cardiac sympathetic nervous system Thirteenth International Congress of Parkinson's Disease and Movement Disorders, Paris, 2009年7月
94. (キ) Shimizu T, Inoue Y, Kuroda K, et al. : Long-term open-label study to evaluate the safety and efficiency of pramipexole(PPX) in Japanese patients with primary Restless Legs syndrome(RLS) Thirteenth International Congress of Parkinson's Disease and Movement Disorders, Paris, 2009年7月
95. (ク) Inoue Y, Kuroda K, Hirata K, et al. : Efficacy, safety, and dose-response of pramipexole(PPX) in Japanese patients with primary restless legs syndrome(RLS); a randomized, double-blind trial Thirteenth International Congress of Parkinson's Disease and Movement Disorders, Paris, 2009年7月
96. (ケ) 浅岡章一, 難波一義, 對木 悟, 井上雄一: 過度な眠気を訴える交代制勤務の運転士における睡眠障害, 第29回日本精神科診断学会, 東京, 2009年10月
97. (コ) 中村真樹, 杉浦建生, 駒田陽子, 難波一義, 作田慶輔, 林田健一, 渡邊芽里, 井上雄一: 夜間睡眠時パニックの臨床的特徴, 第29回日本精神科診断学会, 東京, 2009年10月
98. (サ) Oka Y, Yamazaki M, Inoue Y : Effect of repetitive transcranial magnetic stimulation (RTMS) on patients with narcolepsy. 3rd Asian Narcolepsy forum, Osaka, 2009年10月
99. (シ) Sasai T, Inoue Y : Comparison of clinical characteristics among narcolepsy with and without cataplexy and idiopathic hypersomnia without long sleep time focusing on HLA-DRB1*1501/DOB1*0602 finding. 3rd Asian Narcolepsy forum, Osaka, 2009年10月
100. (ス) 井上雄一: むずむず脚症候群を見逃さない 日本睡眠学会第34回定期学術集会, 大阪, 2009年10月
101. (セ) 難波一義, 井上雄一: 高齢者の睡眠段階判定の問題点 日本睡眠学会第34回定期学術集会, 大阪, 2009年10月
102. (ソ) 井上雄一: ナルコレプシー治療のあり方 日本睡眠学会第34回定期学術集会, 大阪, 2009年10月
103. (タ) 井上雄一: 睡眠学教育—睡眠学会教育委員会の立場から 日本睡眠学会第34回定期学術集会, 大阪, 2009年10月
104. (チ) 野村哲志, 井上雄一, 中島健二: パーキンソン病とレストレスレッグス症候群 日本睡眠学会第34回定期学術

- 集会, 大阪, 2009年10月
- 105.(ツ)尾崎章子, 井上雄一, 中島 亨, 林田健一、本多 真、小林美奈、高橋清久 : 妊娠初期の睡眠障害と過活動膀胱 日本睡眠学会第34回定期学術集会, 大阪, 2009年10月
- 106.(テ)室田亜希子, 難波一義, 井上雄一 : 幻肢にムズムズ感を生じたレストレスレッグ症候群の一例 日本睡眠学会第34回定期学術集会, 大阪, 2009年10月
- 107.(ト)中村真樹, 井上雄一 : 拡散テンソル画像とVBMによるナルコレプシーの大脳白質異常所見 日本睡眠学会第34回定期学術集会, 大阪, 2009年10月
- 108.(ナ)作田慶輔, 中村真樹, 山田正三, 川名ふさ江、井上雄一 : 拡散テンソル画像とVBMによるナルコレプシーの大脳白質異常所見 日本睡眠学会第34回定期学術集会, 大阪, 2009年10月
- 109.(ニ)岡島 義, 駒田陽子, 井上雄一 : 慢性不眠症患者と残遺不眠を伴ううつ病患者の心理学的、身体的特徴の比較 日本睡眠学会第34回定期学術集会, 大阪, 2009年10月
- 110.(ヌ)武井洋一郎, 笹井妙子, 岡 靖哲, 駒田陽子、中村真樹、井上雄一 : ナルコレプシー患者における反復睡眠潜時検査(MSLT)所見の特徴 日本睡眠学会第34回定期学術集会, 大阪, 2009年10月
- 111.(ネ)小林美奈, 難波一義, 中村真樹, 對木 悟, 井上雄一 : 閉塞型睡眠時無呼吸症候群スクリーニングにおけるマツト型無呼吸計測装置(SD-101)の有用性 日本睡眠学会第34回定期学術集会, 大阪, 2009年10月
- 112.(ノ)岡 靖哲, 堀内史枝, 谷川 武, 鈴木周平, 近藤富香, 櫻井 進, 斉藤功, 井上雄一 : 児童青年期睡眠チェックリスト(Child and Adolescent Sleep Checklist:CASC)による睡眠調査・問診システムの作成と評価 日本睡眠学会第34回定期学術集会, 大阪, 2009年10月
- 113.(ハ)對木 悟, 中村真樹, 高嶋亜紀代, 大和田理代、松浦雅人、井上雄一 : 睡眠に関する卒業研修指導:財団法人神経研究所附属睡眠学センターにおける取り組み 日本睡眠学会第34回定期学術集会, 大阪, 2009年10月
- 114.(ヒ)浅岡章一, 井上雄一, 福田一彦 : 深夜帯における1時間の仮眠がエラー反応後の認知的処理過程に与える影響 日本睡眠学会第34回定期学術集会, 大阪, 2009.10
- 115.(フ)井上雄一 : 不眠治療の戦略—QOLを視野に入れて— 日本睡眠学会第34回定期学術集会, 大阪, 2009年10月
- 116.(ヘ)Inoue Y : Treatment of restless legs syndrome with dopamine agonists Results of clinical trials with pramipexole in Japan. The 6th Congress of Asian Sleep Research Society, Osaka, 2009年10月
- 117.(ホ)Abe T, Komada Y, Asaoka S, Inoue Y : Short sleep duration, excessive daytime sleepiness, and long distance driving are associated factors for vehicular accidents in Japan. The 6th Congress of Asian Sleep Research

- Society, Osaka, 2009年10月
- 118.(マ)Sasai T, Inoue Y : The clinical characteristics of periodic limb movements in REM sleep behavior disorder. The 6th Congress of Asian Sleep Research Society, Osaka, 2009年10月
- 119.(ミ)Tsuiki S, Kobayashi M, Takashima A, Maeda K, Matsuura M, Inoue Y : A comparison of oral appliance efficacy with CPAP in patients with positional-dependent obstructive sleep apnea. The 6th Congress of Asian Sleep Research Society, Osaka, 2009年10月
- 120.(ム)Komada Y, Usui A, Abe T, Okajima I, Asaoka S, Matsuura N, Shirakawa S, Inoue Y : Nap duration, nocturnal sleep habits, and behavior problems among pre-school aged children in Tokyo. The 6th Congress of Asian Sleep Research Society, Osaka, 2009年10月
- 121.(メ)Asaoka S, Abe T, Komada Y, Inoue Y : The determinant factors of the preference of taking a nap as the countermeasure for drowsiness driving. The 6th Congress of Asian Sleep Research Society, Osaka, 2009年10月
- 122.(モ)浅岡章一, 難波一義, 對木 悟, 井上雄一: 過度な眠気を訴える交代制勤務の運転士における睡眠障害 第29回日本精神科診断学会, 東京, 2009.10
- 123.(ヤ)中村真樹, 杉浦建生, 駒田陽子, 難波一義, 作田慶輔, 林田健一, 渡邊芽里, 井上雄一: 夜間睡眠時パニックの臨床的特徴 第29回日本精神科診断学会, 東京, 2009年10月
- 124.(ユ)井上雄一: 不眠の生理機構と対応 第39回日本臨床神経生理学会学術大会, 北九州市, 2009年11月
- 125.(ヨ)阿部高志, 浅岡章一, 駒田陽子, 松橋亜矢, 野々村智英, 笹井妙子, 碓氷 章, 植野彰規, 井上雄一: 行動的覚醒維持検査中の瞬目指標に及ぼす部分断眠の影響 第39回日本臨床神経生理学会学術大会, 北九州市, 2009年11月
- 126.(ラ)浅岡章一, 井上雄一, 福田一彦: 深夜帯の仮眠後における睡眠慣性がエラー反応後の認知的処理に与える影響 第39回日本臨床神経生理学会学術大会, 北九州市, 2009年11月
- 127.Uchiyama M. The XV International Congress of The International Society of Psychosomatic Obstetrics and Gynecology. JSPOG seminar 3 (invited lecture) Sleep disorders in women's life. Kyoto (Kyoto International Conference Center). 2007.5.15.
- 128.Makoto Uchiyama: IUPS Congress (XXXVI International Congress of Physiological Sciences) Whole Day Symposium 2009/7/30 Temporal Organization of Physiology and Behavior. Humans suffering from disorganized rhythms. Kyoto (Kyoto International Conference Center). 2009.7.30
- 129.Uchiyama M: International Symposium on Biological Rhythm. Physiology and

- pathology of human circadian organization. Sapporo, 2009.8.1-4
130. Uchiyama M: ASRS, JSSR, JSC Joint Congress 2009. Melatonin as a drug. Osaka. 2009.10.26
131. 内山真. 第 27 回日本医学会総会. 基調講演 多彩な睡眠障害-パネルディスカッション 日本人の睡眠と生体リズム 睡眠と不眠を科学する-. 主催: 日本医学会. 大阪(大阪国際会議場). 2007.04.06.
132. 金野倫子, 内山真. 第 103 回日本精神神経学会総会. シンポジウム5「精神科一般診療で遭遇する睡眠障害とその対応」向精神薬による睡眠時随伴症. 高知. 2007.5.17.
133. 内山真. 第 50 回日本糖尿病学会 ランチョンセミナー26. 不眠症と睡眠薬治療. 仙台. 2007.05.26.
134. 内山真. 第 49 回日本老医年学会学術集会 ランチョンセミナー7. 高齢者の不眠と QOL. 第 49 回日本老医年学会学術集会, 札幌市(ロイトン札幌). 2007.06.21.
135. 内山真. 第 10 回日本薬物脳波学会学術集会 特別講演. 睡眠障害治療薬剤の効果判定に役立つ睡眠脳波指標. 2007.07.06 .
136. 内山真. 第 29 回日本精生物学的精神医学会・第 37 回日本神経精神薬理学会合同年会シンポジウム:睡眠のメカニズムと不眠症治療の新展開. 不眠症の病態と不眠症治療の位置づけ. 札幌市(札幌コンベンションセンター). 2007.07.11.
137. 内山真:精神科臨床に必要な睡眠医学の知識, 専門医特別講座 4, 第 104 回日本精神神経学会総会, 2008/05/30.
138. 内山真:精神科専門医に必要な睡眠医学の知識, 専門医特別講座 4, 第 3 回日本精神神経学会生涯教育研修会, 2008/06/01.
139. 内山真:女性の心のケアに必要な睡眠障害の知識, ランチョンセミナー, 第 15 回日本産業精神保健学会大会, 2008/06/07.
140. 金野倫子, 内山真:睡眠障害治療におけるメラトニン受容体作動薬等の応用, シンポジウム 3 睡眠障害治療薬開発の最前線, 第 18 回臨床精神神経薬理学会 第 38 回日本神経精神薬理学会, 2008/10/01.
141. 内山真:過眠症治療におけるメチルフェニデートの位置づけ, シンポジウム 6 メチルフェニデートの有用性と依存性その基礎と臨床, 第 18 回臨床精神神経薬理学会 第 38 回日本神経精神薬理学会, 2008/10/02.
142. 内山真:不眠症の病態と治療, 特別講演, 第 3 回中四国睡眠医療研究会, 08/10/04.
143. 内山真:眠りと夜の歴史, 睡眠文化研究フォーラム, 睡眠文化を学ぶ人のために, 08/10/25.
144. 内山真:精神科における睡眠障害への対応法, イブニングセミナー, 第 49 回中国・四国精神神経学会, 08/11/21
145. 内山真: 日本病院薬剤師会精神科薬物療法認定薬剤師講習会. 睡眠障害～病態と診断～. 大阪市(大阪コスモスクエア国際交流センター) 2009.6.14

146. 内山真: 平成 21 年度第 2 回千葉県精神科専門・認定薬剤師講習会. 不眠の病態と薬物療法. 2009.7.26
147. 内山真: 平成 21 年度新潟県自殺対策事業・中越大震災被災地における心の健康づくり事業 新潟県自殺対策推進月間イベント. 眠りを知ろう～心の休養とねむり. 長岡市(ホテルニューオータニ長岡). 2009.8.22
148. 内山真: 第 4 回日本睡眠学会・生涯教育セミナー. 不眠・睡眠不足の心身におよぼす影響. 2009.8.30
149. 内山真: 第 34 回日本睡眠学会 シンポジウム S1-5 ナルコレプシーの診断と治療ガイドライン. ナルコレプシーの自覚症状の捉え方と鑑別. 大阪. 2009.10.25
150. 内山真: 第 19 回日本臨床精神神経薬理学会・第 39 回日本神経精神薬理学会. 気分障害の時間生物学的治療. 2009.11.14.
151. 内山真: 第 39 回日本臨床神経生理学学会学術大会. 睡眠の神経生理学. 2009.11.20.
152. 鈴木正泰, 高橋 栄, 松島英介, 内山真, 小島卓也: 第 29 回日本神経科診断学会. 探索眼球運動を用いた統合失調症の客観的診断. 東京. 2009.10.16-17.
153. 越前屋勝, 岩城忍, 須田秀可, 佐藤浩徳, 清水徹男: 催眠系薬物の投与により奇異反応を生じた思春期 Non-24 の 2 症例, 日本睡眠学会第 32 回定期学術集会・第 14 回日本時間生物学会学術大会合同大会, 東京 2007 年 11 月
154. 近藤英明, 大木昇, 佐川洋平, 松渕浪子, 武村尊生, 神林崇, 永田晋, 吉田健志, 川崎昭子, 和泉元衛, 菱川泰夫, 清水徹男: Cyclic Alternating Pattern と心拍・血圧変動, 日本睡眠学会第 32 回定期学術集会・第 14 回日本時間生物学会学術大会合同大会, 東京 2007 年 11 月
155. 近藤英明, 大木昇, 佐川洋平, 松渕浪子, 武村尊生, 神林崇, 永田晋, 吉田健志, 川崎昭子, 和泉元衛, 菱川泰夫, 清水徹男: 心拍変動を指標とした睡眠時の自律神経活動, 日本睡眠学会第 32 回定期学術集会・第 14 回日本時間生物学会学術大会合同大会, 東京 2007 年 11 月
156. 川崎昭子, 近藤英明, 永田晋, 吉田健志, 佐川洋平, 松渕浪子, 武村尊生, 神林崇, 和泉元衛, 菱川泰夫, 清水徹男: 睡眠時核心温測定を試み一前額部核心温と直腸温との比較, 日本睡眠学会第 32 回定期学術集会・第 14 回日本時間生物学会学術大会合同大会, 東京 2007 年 11 月
157. 佐川洋平, 近藤英明, 松渕浪子, 武村尊生, 兼子義彦, 神林崇, 菱川泰夫, 清水徹男: アルコールは用量依存的に睡眠中の副交感神経活動を抑制する, 日本睡眠学会第 32 回定期学術集会・第 14 回日本時間生物学会学術大会合同大会, 東京 2007 年 11 月
158. 武村尊生, 武村史, 神林崇, 井上雄一, 内村直尚, 伊藤洋, 内山真, 佐川洋平, 徳永純, 清水徹男: 原発性不眠症の薬物療法による QOL の改善—プロチゾラムを使用して—, 日本睡眠

- 学会第32回定期学術集会・第14回日本時間生物学会学術大会合同大会，東京2007年11月
159. 北條康之，越前屋勝，岩城忍，安部俊一郎，三島和夫，大久保正，清水徹男：睡眠導入剤ゾルピデムとセントジョーンズワートとの薬理相互作用，日本睡眠学会第32回定期学術集会・第14回日本時間生物学会学術大会合同大会，東京2007年11月
160. 田ヶ谷浩邦，清水徹男，伊藤洋，井上雄一，内村直尚，江崎和久，大井田隆，亀井雄一，神林崇，河野正己，榊原博樹，塩見利明，名嘉村博，古田壽一，宮崎総一郎，宮本雅之：睡眠障害医療における医療機関連携のガイドライン作成に関する研究，日本睡眠学会第32回定期学術集会・第14回日本時間生物学会学術大会合同大会，東京2007年11月
161. 奥田将人，児玉亨，神林崇，武村尊生，筒井幸，佐川洋平，兼子義彦，清水徹男：凍結・解凍を繰り返した脳脊髄液中のヒスタミンの残存率，日本睡眠学会第32回定期学術集会・第14回日本時間生物学会学術大会合同大会，東京2007年11月
162. 神林崇，丸山史，佐藤浩徳，石川博康，徳永純，近藤英明，佐川洋平，武村尊生，筒井幸，清水徹男：神経性食思不振症におけるオレキシンとアグーチ関連蛋白(AgRP)，日本睡眠学会第32回定期学術集会・第14回日本時間生物学会学術大会合同大会，東京2007年11月
163. 上村(伊藤)佐知子，神林崇，近藤英明，武村尊生，佐川洋平，兼子義彦，奥田将人，筒井幸，西野精治，清水徹男：ナルコレプシーでの髄液トランスフェリンと鉄イオンの増加，日本睡眠学会第32回定期学術集会・第14回日本時間生物学会学術大会合同大会，東京2007年11月
164. 神林崇，中島一郎，高橋利幸，下畑亨良，田中恵子，中村道三，筒井幸，林(小川)由理子，西澤正豊，清水徹男：視床下部病変により過眠を来す多発性硬化症とアクアポリン4抗体，日本睡眠学会第32回定期学術集会・第14回日本時間生物学会学術大会合同大会，東京2007年11月
165. 宮本雅之，清水徹男，宮本智之，平田幸一：睡眠医療専門施設における神経疾患に関連する睡眠障害の診療の実態，日本睡眠学会第32回定期学術集会・第14回日本時間生物学会学術大会合同大会，東京2007年11月
166. 相澤里香，砂原秀樹，神林崇，清水徹男：ソーシャルネットワーキングサービス mixi における「睡眠」関連コミュニティの分析，日本睡眠学会第32回定期学術集会・第14回日本時間生物学会学術大会合同大会，東京2007年11月
167. 相澤里香，砂原秀樹，神林崇，清水徹男：CPAP利用患者における睡眠手帳の導入について，日本睡眠学会第32回定期学術集会・第14回日本時間生物学会学術大会合同大会，東京2007年11月
168. 岩城忍，三島和男，佐藤浩徳，松本康宏，越前屋勝，加藤倫紀，草薨宏

- 明, 清水徹男: 大うつ病における残遺不眠の実態, 日本睡眠学会第 33 回定期学術集会, 福島 2008 年 6 月
169. 武村尊生, 神林崇, 高橋勉 野口篤子, 武村史, 金山浩信, 松渕浪子, 林由理子, 大沼俊, 筒井幸, 佐川洋平, 徳永純, 佐藤雅俊, 清水徹男: 症候性に Cataplexy をきたし、Niemann-Pick Disease Type C が疑われた 2 症例, 日本睡眠学会第 33 回定期学術集会, 福島 2008 年 6 月
170. 佐藤紳一, 神林崇, 近藤英明, 松渕浪子, 尾野恭一, 清水徹男: ヒト REM 睡眠時における瞬時および 2 分平均呼吸数の増大, 日本睡眠学会第 33 回定期学術集会, 福島 2008 年 6 月
171. 加藤倫紀, 越前屋勝, 佐藤浩徳, 松渕浪子, 大久保正, 清水徹男, 三島和夫: 放熱強度の高い睡眠薬は徐波睡眠を抑制する, 日本睡眠学会第 33 回定期学術集会, 福島 2008 年 6 月
172. 川崎昭子, 吉田健志, 西智加子, 近藤英明, 和泉元衛, 神林崇, 清水徹男: Cheyne-Stokes 呼吸に対する治療後にナルコレプシーが明らかとなった 1 例, 日本睡眠学会第 33 回定期学術集会, 福島 2008 年 6 月
173. 宮本雅之, 清水徹男, 宮本智之, 平田幸一: 睡眠関連運動障害における睡眠医療の実態調査, 日本睡眠学会第 33 回定期学術集会, 福島 2008 年 6 月
174. 吉田健志, 西智加子, 川崎昭子, 近藤英明, 神林崇, 清水徹男, 和泉元衛: 発症後数十年後に診断されたナルコレプシーの 2 例について, 日本睡眠学会第 33 回定期学術集会, 福島 2008 年 6 月
175. 有井潤子, 神林崇, 伊藤若子, 佐藤雅俊, 徳永純, 佐川洋平, 兼子義彦, 上村佐知子, 武村尊生, 清水徹男: 小児ナルコレプシー診断における髄液中オレキシン濃度測定の有用性 第 2 報, 日本睡眠学会第 33 回定期学術集会, 福島 2008 年 6 月
176. 徳永純, 佐藤雅俊, 佐川洋平, 武村史, 武村尊生, 兼子義彦, 小川由里子, 神林崇, 清水徹男: リタリン処方制限に伴い当院へ紹介となったナルコレプシー疑い患者の最終診断, 日本睡眠学会第 33 回定期学術集会, 福島 2008 年 6 月
177. 相澤里香, 砂原秀樹, 桑和彦, 土屋智, 足立浩祥, 神林崇, 清水徹男: ナルコレプシー患者のインターネット利用状況について, 日本睡眠学会第 33 回定期学術集会, 福島 2008 年 6 月
178. 小曾根基裕, 八木朝子, 伊藤洋, 田村義之, 井上雄一, 内村直尚, 佐々木三男, 中山和彦, Giovanni Terzano Mario, 清水徹男: Paradoxical insomnia における睡眠のマイクロ構造について -CAP 法を用いた研究-, 日本睡眠学会第 33 回定期学術集会, 福島 2008 年 6 月
179. 清水徹男: 【シンポジウム】Mild sleep restriction for 5 days: its impact on MSLT, ESS and HPA axis, 日本睡眠学会第 33 回定期学術集会, 福島 2008 年 6 月
180. 清水徹男: 【シンポジウム】睡眠に関連した異常行動と暴力, 日本睡眠学会

- 第33回定期学術集会, 福島 2008年6月
181. 武村尊生, 神林崇, 近藤英明, 佐川洋平, 武村史, 鈴木稔, 大沼俊, 林由理子, 筒井幸, 徳永純, 菅原結花, 佐藤雅俊, 清水徹男: 過眠症患者のCSFオレキシンの「中間値」は何を意味するのか?, 日本睡眠学会第34回定期学術集会, 大阪 2009年10月
182. 細川敬輔, 細川理絵, 伊東若子, 徳永純, 佐川洋平, 神林崇, 清水徹男: ナルコレプシーに統合失調症を併発した1例, 日本睡眠学会第34回定期学術集会, 大阪 2009年10月
183. 越前屋勝, 佐藤浩徳, 細川敬輔, 草薙宏明, 須田秀可, 寺門靖太郎, 清水徹男: 深部体温リズムの前進に伴い睡眠覚醒リズムが改善した概日リズム睡眠障害、睡眠相後退型の3症例, 日本睡眠学会第34回定期学術集会, 大阪 2009年10月
184. 上村佐知子, 若狭正彦, 伊東若子, 清水和美, 菅原結花, 神林崇, 清水徹男: 健常高齢者に対する睡眠導入剤の一回服用が精神運動や主観的評価に及ぼす影響, 日本睡眠学会第34回定期学術集会, 大阪 2009年10月
185. 若狭正彦, 上村佐知子, 大澤諭樹彦, 神林崇, 伊東若子, 清水和美, 清水徹男: 睡眠導入起床後における覚醒度と運動機能評価一経時的推移による検討一, 日本睡眠学会第34回定期学術集会, 大阪 2009年10月
186. 越前屋勝, 葛西菜摘, 岡根初美, 神原篤司, 清水徹男: 看護師の深夜勤務前の仮眠が深夜勤務中の自覚的眠気及び作業能率に及ぼす影響, 日本睡眠学会第34回定期学術集会, 大阪 2009年10月
187. 相澤里香, 川添英里子, 砂原秀樹, 神林崇, 清水徹男, 高橋清久: インターネットにおける塩酸メチルフェニデート製剤関連情報の分析, 日本睡眠学会第34回定期学術集会, 大阪 2009年10月
188. 伊東若子, 神林崇, 児玉亨, 細川敬輔, 菅原結花, 林由理子, 清水和美, 相澤里香, 千葉茂, 清水徹男: 様々な疾患におけるヒスタミン値の測定, 日本睡眠学会第34回定期学術集会, 大阪 2009年10月
189. 佐藤伸一, 神林崇, 近藤英明, 松淵浪子, 星野恭一, 清水徹男: REM-NREM睡眠時と同様に観察されたウレタン麻酔マウスにおける呼吸数急上昇とそれに同期した周期的脳波振幅変化, 日本睡眠学会第34回定期学術集会, 大阪 2009年10月
190. 徳永純, 佐藤伸一, 神林崇, 清水徹男: ピエゾ素子センサーを用いた非侵襲的計測による新生ラット心拍数および自律神経系の発達過程の解明, 日本睡眠学会第34回定期学術集会, 大阪 2009年10月
191. 清水徹男: 【シンポジウム】GPと専門医の住み分けをめぐって, 日本睡眠学会第34回定期学術集会, 大阪 2009年10月
192. 神林崇, 本多真, 吉田祥, 清水徹男: 【シンポジウム】髄液オレキシンの血液 HLA の補助診断としての適応と

限界, 日本睡眠学会第34回定期学術集会, 大阪 2009年10月

193. 岩城忍, 清水徹男, 三島和夫: 【シンポジウム】うつ病と不眠の疫学的関連性, 日本睡眠学会第34回定期学術集会, 大阪 2009年10月

194. 清水徹男: 【教育講演】うつ病と睡眠障害, 第105回日本精神神経学会学術総会, 神戸 2009年8月

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

Ⅱ. 分担総合研究報告

日本における向精神薬処方の方方実態とその背景要因

分担研究者 三島和夫¹

研究協力者 榎本みのり¹、北村真吾¹、草薙宏明^{1,2}、古田光¹、筒井孝子³、大野賀政昭³、兼板佳孝⁴

1 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所精神生理研究部

2 秋田大学医学部運動器学講座精神医学分野

3 国立保健医療科学院福祉サービス部

4 日本大学医学部公衆衛生学教室

研究要旨 一般人口における向精神薬の服用率は 1.5-10%といわれており、女性で多く、加齢に伴って増加する。欧米諸国では、近年、向精神薬の処方は増加傾向にある。しかし、日本では向精神薬の服用の実態について質問紙を使用した疫学調査の報告しかない。そこで、本研究では日本の向精神薬の薬物処方率、処方量、処方の背景にある身体疾患と精神疾患に関しての 3 年間の経年調査を行った。複数の健保団体の計約 31~33 万人の加入者の中で、2005 年~2007 年の各年 4 月 1 日~6 月 30 日の 3 ヶ月間に医療機関を受診し向精神薬(睡眠薬、抗うつ薬、抗不安薬もしくは抗精神病薬)を処方された 20~74 歳の患者から日本の処方実態を調査した。その結果、以下の諸点が明らかになった。

2005 年から 2007 年にかけて一般人口におけるすべての向精神薬の推定処方率が増加していた。(2005-2007 年の 3 ヶ月処方率 睡眠薬:3.66-4.58%、抗うつ薬:2.02-2.53%、抗不安薬:4.42-5.07%、抗精神病薬:0.67-0.84%)。睡眠薬、抗不安薬:男女ともに加齢に伴って処方率が増加しており、65 歳以上の女性で処方率の経年的増加がみられた。抗うつ薬:男性では 40 代前後、女性では 65 歳以上に処方のピークがあり、この年代層で処方率の経年的増加がみられた。抗精神病薬:男女とも加齢に伴う目立った処方率の変動は見られなかった。睡眠薬・抗不安薬の精神科・心療内科での処方割合は 4 割以下に止まる一方、抗うつ薬、抗精神病薬はその約 7 割が精神科・心療内科から処方されていた。高齢者での向精神薬、とくに睡眠薬と抗不安薬の処方は、一般身体科からの処方が約 8 割を占めていた。抗うつ薬でも高齢者では約 7 割が一般身体科からの処方であった。

欧米諸国でも、向精神薬の処方率は増加傾向にあるが、今回明らかになった我が国での向精神薬の推定処方率も 3 年間を通して増加していた。とくに高齢者では睡眠薬、抗不安薬、抗うつ薬(女性)の処方率が顕著に経年的に増加していた。若年者~中年期における睡眠薬服用者では気分障害の併存が、高齢者では身体疾患の合併が関連していた。

A. 研究目的

一般人口における向精神薬の服用率は1.5-10%といわれており、女性で多く、加齢に伴って増加する。欧米諸国では、近年、向精神薬の処方増加傾向にある。

不眠は精神疾患に併発する症状としては最も頻度の高いものの一つである。とりわけ、気分障害(うつ病)では患者の90%以上で不眠が認められ、また両者の重症度は相関する。うつ病の残遺症状は再発リスクを3~5倍に高めるが、その中で最も頻度の高い症状が不眠であるとされる。欧米の調査では一般医受診者の60%が不眠を呈し、その最大のリスク要因はうつ状態であると報告されている。すなわち、不眠はプライマリケアから精神医療に至るまでのさまざまなレベルのうつ診療において常に留意すべき症候の一つである。

不眠はうつ病の前駆症状として重要である。欧米を中心に行われたこれまでの調査では、うつ病の発症もしくは再発に先行して不眠が出現することが多いこと(初発例の約40%、再発例の約60%)、慢性不眠はその後のうつ病の発症リスクを大きく増大させること、不眠(特に悪夢)を合併するうつ病では自殺率が高いことなどがコホート研究等で示されている。これらの事実は、不眠症状がうつ病や自殺リスク者の早期発見、早期介入のための有用な臨床マーカーとなる可能性を示唆している。

しかしながら実際の医療現場では、不眠の背景にある因子が十分に把握されないまま、

多くの不眠症者に対してベンゾジアゼピンを中心とした画一的な睡眠薬処方が年余にわたりなされている現状にある。その結果、うつ病、不安障害、アルコール依存などのうつ状態や自殺リスクの高い精神疾患患者の中にも、その精神兆候に気付かれず不眠を主たる愁訴として長期間にわたり一般医のもとで対処療法を受け、適切な精神医学的介入の機会を失っているケースが多々あるものと推測される。このような不適切な不眠対処は効果的でないばかりか、過鎮静等の有害事象の発生や連用による常用量依存なども引き起こし、結果的に患者の社会機能の回復を阻害する危険性が高い。

しかしながら、現時点においても、不眠症者の受療実態(診療科)や睡眠薬の処方実態に関する大規模な疫学調査は行われていない。そこで、本研究では日本の向精神薬の薬物処方率、処方量、処方の背景にある身体疾患と精神疾患に関しての3年間の経年調査を行った。

B. 研究対象と方法

調査対象者の内訳を表1に示した。本研究では、株式会社日本医療データセンター(JMDC)が保有する複数の健康保険組合に加入している0歳~74歳の勤労者及びその家族、計約31~33万名の被保険者のうち、2005年~2007年の各年の4月1日~6月30日の3ヶ月間に表2に示したいずれかの向精神薬(睡眠薬、抗うつ薬、抗不安薬もしくは抗精神病薬)、を処方された患者を抽出